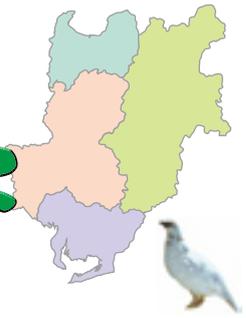




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



岐阜県立飛騨高山高校 井戸さん・田中さん



長野県立上伊那農業高校 唐澤さん・宮下さん



審査風景



会場風景

平成19年度

中部森林技術 交流発表会を開催

(P 4~5に関連記事)

| | |
|------|-------------------------------------|
| 主な項目 | ○ 平成19年度治山・林道工事コンクール表彰式 P 3~4 |
| | ○ 平成19年度中部森林技術交流発表会を開催 P 4~5 |
| | ○ 木材生産と利用拡大 P 6 |



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

中部森林管理局長交代

新局長に **平野** 秀樹 氏



平野新局長着任あいさつ

このたび、中部森林管理局長を拝命いたしました平野でございます。

日本のアルプスを擁する中部局に勤務することができ、皆様とともに頑張つて参りたいと考えております。

中部森林管理局管内には、これまで各県に数回訪れただけで、生活したことはありません。まずは地域の皆様方の声を聞き、現場で働く皆さんを知ることから始めたいと思います。前任の小祿局長の築き上げてきた方針を基本としながら、今後とも取り組んでいく所存です。

いま温暖化・環境問題がますますメジャーになっていく中、森林系ジャンルがもつ重要性は枯れることはありません。持続的な再生産と、国土の背骨を支えていく水土保全事業を担う国有林野事業の重要性は増すばかりです。期待に応え、共感していただけるような成果の発信を

していきたいと思っております。

「情報開示」や「コンプライアンス（法令遵守）の確保」など、私たちの組織を取り巻く環境は激変してきています。業務で書き記した文書は基本的にみな行政文書であり、それらは万人からの開示請求に応えなければなりません。これらを意識した業務の質と速かな遂行が様々な主体から問われています。

「開かれた国有林」「国民の森林」を指していくには、過たない業務の執行と、平易な説明をつづけていくことが欠かせません。国民の目線とかけ離れた取り組みでは、すぐさまレッドカードを突きつけられかねない状況にあることを自覚しつつ、一方で、自然を相手にした息の長い取り組みが森林・林業の変え得ない特性であることも主張しつづけたと思います。容易ではないのですが、だから問われても自分たちの仕事について誇りをもって応えていきたいものです。

もう一つ、国有林を支えていく大きな力は地域の力です。地域の声に十分耳を傾けながら、「林野庁に託してよかった」といわれる国有林となるために、多くの皆様と行動をともにして参りたいと考えています。

今後、国民の声に応えうる職場としていくには、日ごろの取り組みが何より必要で、その前提として個々の皆さんの健康づくりが欠かせません。局・署一体となつて安全で明るい職場としていくため

に、私自身も大いに努力する所存です。で、どうかよろしく願っています。

◆平野局長の略歴

生年月日 昭和29年9月7日

本籍 兵庫県加古川市

略歴 九州大学農学部林学科卒

(昭52・3)

昭52・4 林野庁林政課に採用後、青森

局計画課・利用課・三戸署、

林野庁計画課、国土庁計画・

調整局を経て

〳62・8 帯広支局阿寒営林署長

平元・8 林野庁経営企画課企画官

〳2・12 林野庁業務第二課課長補佐

(国有林野総合利用推進班担

当)

〳5・8 林野庁企画課課長補佐(税制

班担当)

〳7・4 林野庁計画課課長補佐(全国

森林計画班担当)

〳8・8 国土庁防災局防災企画官

〳10・8 林野庁業務第二課国有林野総

合利用推進室長

〳11・3 林野庁業務課国有林野総合利

用推進室長

〳13・1 林野庁管理課監査室長

〳15・4 林野庁研究普及課長

〳17・7 環境省総合環境政策局環境影

響評価課長

〳19・4 林野庁経営企画課長

〳20・1 中部森林管理局長

●退官で挨拶

前局長 **小祿** 直幸 氏



中部森林管理局を最後に役人生活を終えるに当たり、別れの挨拶を申し上げます。

平成十八年の正月を迎えて間もない時期に新幹線で長野市に降り立ちました。東京を出て、大宮、高崎を過ぎ、長い長い秋間トンネル、一ノ瀬トンネル、碓氷峠トンネルを抜けると長野県軽井沢。雪が積もっていました。北海道経験が長かったこともあり、同じ雪でも暖かい感じがしたことを覚えています。今思えば、地域の方々の人情味の温かさを感じたのかもしれない。前の年の暮れに大雪に見舞われ、挨拶回りも大変でしたが、一期一会の出会いのすばらしさも感じました。二年と四日の楽しい生活、本当にありがとうございました。

さて、職員の皆様には、様々な事件の処理も含め、お世話になりましたが、一つだけお願いをします。現場を預かる現業の森林管理局としては、国民の皆様から預かっている森林を適正に管理するだけでなく、地域の様々な情報を的確に把握し、適正に対応していくことがきわめて重要です。しかし、今その情報が遠ざ

かつてしまつていような気がします。事業実行の透明性と遵法性を確保しつつ、一方では、適時適切な情報を手渡し、国有林マンとしてなすべき仕事を手遅れにならないようにしなければなりません。国有林野事業は、現場重視主義で現場最先端の森林事務所等から始まって、森林管理署、森林管理局、林野庁と一本化された組織ですが、さらにその先には、事業を請け負って受注した仕事に汗を流している方々があります。これらの方々の毎日の情報は、その場にいるものにはわからない様々な貴重なものが含まれています。情報のネットワークを様々な場を活用して構築していかないとこれらの情報が耳に入つてこないことになりません。入つてきても、日頃訓練しておかないと判断中枢を素通りして、その重要性を見逃してしまふことになりません。情報にどん欲になつてください。

今、朝のNHKのドラマで、若狭の塗り箸のことが出てきていますが、その中の台詞に、「塗り箸の模様は、いくら磨きだしても日頃積み重ねたものしか出てこない」という言葉がありました。職員の皆様も日頃からいろいろなことを積み重ね、切磋琢磨して自分の中にある宝物を磨きだしてください。その宝物が日頃の情報だと思っています。

このことを最後にお別れの言葉といたします。本当にありがとうございます。

平成十九年度

治山・林道工事コンクール

表彰式

〔治山課・森林整備課〕二月十二日、平成十九年度治山・林道工事コンクール表彰式を中部森林管理局において開催しました。このコンクールは、治山工事及び林道工事の適正化並びに施行技術の向上について関係者の意欲の高揚を図り、併せて設計技術の向上に資することを目的に実施しています。

平成十八年度に中部森林管理局管内で実行した、治山工事百五十六件、林道等工事二十件の工事を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十六件、林道部門で四件を優良工事として選出し、この中から、最優秀工事として治山部門・林道部門のそれぞれ二件を林野庁へ推薦した結果、林道工事が一件が栄えある農林水産大臣賞を受賞しました。また、林道工事一件と治山工事二件について林野庁長官賞を受賞しました。

また、これ以外の治山部門の十四件、林道部門の二件については中部森林管理局長賞の受賞となりました。

十二日の表彰式は、旧中部局管内の受賞者に対し行われ、瀬戸口森林整備部長から審査報告の後、平野局長から表彰状が手渡されました。

また、旧名古屋分局管内の受賞者に対する表彰伝達式は、二月十八日に名古屋

市内で行われ、小林次長からそれぞれ表彰状が手渡されました。

なお、農林水産大臣賞並びに林野庁長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち、二月七日東京において行われています。各賞の受賞者は次のとおり

●旧中部森林管理局管内

〔林道工事部門〕

◎農林水産大臣賞

◇大宗土建株式会社 (南木曾町)

◇大木無林道新設工事 (南木曾支署)

◇中部森林管理局長賞

◇株式会社梅田組 (下呂市)

◇林野庁長官賞

◇木曾土建工業株式会社 (木祖村)

◇ヒル久保復旧治山工事 (木曾署)

〔治山工事部門〕

◎中部森林管理局長賞

◇株式会社北條組 (長野市)

◇馬曲川災害関連緊急治山工事 (北信署)

◇株式会社傳刀組 (大町市)

◇浦川復旧治山工事 (中信署)

◇株式会社高宮組 (松本市)

◇長助沢復旧治山工事 (中信署)

◇宮下建設株式会社 (伊那市)

◇のたなぎ沢2水源流域広域保全工事 (南信署)

◇奥田工業株式会社 (大桑村)

◇トチ沢復旧治山工事 (南木曾支署)

◇大協建設株式会社 (大鹿村)

◇小塩(2)地すべり防止工事 (伊那谷総治)

◇株式会社内山組 (飯田市)

◇二股沢復旧治山工事 (伊那谷総治)

◇伊那谷総治 (飯田市)

◇伊那谷総治 (飯田市)

◇伊那谷総治 (飯田市)

●旧名古屋分局管内

〔林道工事部門〕

◎林野庁長官賞

◇ナガイ株式会社 (高山市)

◇鈍引沢林道新設工事 (飛騨署)

◇中部森林管理局長賞

◇付知土建株式会社 (中津川市)

◇白川付知林道災害復旧工事 (東濃署)

◇治山工事部門

◎林野庁長官賞

◇株式会社谷上組 (飛騨市)

◇大谷(片野川)復旧治山工事 (飛騨署)

◇中部森林管理局長賞

◇大高建設株式会社 (黒部市)

◇祖父谷復旧治山工事 (富山署)

◇祖父谷復旧治山工事 (富山署)

◇祖父谷復旧治山工事 (富山署)

◇祖父谷復旧治山工事 (富山署)

◇祖父谷復旧治山工事 (富山署)



各賞を受賞されたみなさん

◇橋本建設株式会社 (高山市)

工事名 大白川 (アレ谷) 復旧治山

工事 (飛騨署)

◇大土木株式会社 (高山市)

工事名 野麦 (脇谷その2) 復旧治山

山工事 (飛騨署)

◇日下部建設株式会社 (下呂市)

工事名 川上 (本谷下流) 復旧治山

工事 (岐阜署)

◇株式会社加藤工務店 (中津川市)

工事名 湯舟沢 (姥ナギ沢2) 復旧

治山工事 (東濃署)

◇矢野・佐々木経常建設共同企業体 (恵那市)

工事名 阿木 (阿木川) 復旧治山

工事 (東濃署)

◇株式会社加地工務店 (中津川市)

工事名 東股 (中の谷) 復旧治山

工事 (東濃署)

試験研究・林業体験活動等を発表

平成十九年度 中部森林技術交流発表会

「指導普及課」二月七日～八日、中部森林管理局において、平成十九年度中部森林技術交流発表会を開催しました。

この発表会は、管内各森林管理署等、各県の試験研究機関、大学、高等学校、NPO等が、日頃から取り組んでいる森林・林業に関する試験研究、林業体験・ふれあい活動等の取り組みについて発表し、関係者相互の交流、森林・林業の推進と各成果の普及に資することを目的とし毎年開催しているもので、今年度は各森林管理署等から十一課題(関係団体等との共同発表一課題含む)、民有林関係等から四課題及び学生から五課題の計二十課題となりました。

一日目は、平野局長による「森林を巡る情勢は、国際的には京都議定書の第一

年目として五か年間の約束期間をどう乗り切るか、国全体として森林整備で間伐

一万枚上乗せの着実な実行に取り組み

ばならないこと、国内的には様々な課題

について一体となつて進めていかなければならないこと、地方圏レベルでは森林

環境税が四十七都道府県中二十九で予定

又は決定されたということなど、環境問題として森林を吸収源として活用しよう

という動きが大きくなつてきて、経済と肩を並べてきているといえる。」と

挨拶があり、その後、国有林関係から、森林施業、治山事業、自然保護、森林ふれあい活動などの発表があり、午後、民有林関係から自然環境保全整備、砂防緑化工法、森林調査、測樹、間伐関連技術の発表が行われました。

二日目は、名古屋大学、長野県林業大学、飛騨高山高校、上伊那農業高校の学生による発表が行われました。

発表終了後、審査委員代表の山田准教授(名古屋大学大学院)から講評として、「この発表会は、若い人から年配の方まで森林・林業に関連するいろいろな人々が集まつて、現場体験に基づくユニークな発想や取り組みなど幅広い話が聞ける貴重な場である。こうなりましたという実施結果だけを発表するのではなく、定量的なデータを出して説明すれば説得力が高まる。また、技術の実用化にはコストの面が避けられないので、その点を押さえつつ、今後とも研究を続けていただきたい。」とアドバイスがありました。

その後、計画部長から国有林の部の審査結果として優秀賞三課題が、引き続き、県等の発表者へ記念品、学生発表者へ局長奨励賞の贈呈を行い、閉会となりました。

今回は、発表者・傍聴者等を含め約百八十名が参加し、盛大に行われました。

中部局としては、今後とも森林・林業の推進と普及に努めていくこととしてお

り、各署等での技術開発や森林ふれあい活動への積極的な取り組みを強く期待しています。

発表者、課題名及び受賞者は次のとおりです。

国[■]有[■]林[■]の[■]部

◎局長賞・優秀賞

吉田 一(富山森林管理署)

・「飛騨でもできた」を目指し、民有林・国有林が連携した低コスト作業の取り組み

川本芳光(飛騨森林管理署)

・愛知所における木材を利用した治山構造物について

萩原伸也(愛知森林管理事務所)

◎局長賞 努力賞

・ヒノキ列状間伐実行後の状況について

熊澤智史(森林技術センター)

・富士本亜弥(森林技術センター)

・出前授業による地域への国有林のPRについて

中村信平(南信森林管理署)

南坂博和()

・ボランティアによる木曾駒ヶ岳植生復元作業の取り組み

寺澤茂雄(ふれあいセンター)

・木曾ヒノキの集団枯損について

沢林木遺伝資源保存林奥千本の事例

三村晴彦 (木曽森林管理署)

岡本 守 ()

・モリアオガエルを育てる治山ダム

中畑孝史 (南木曽支署)

・上矢作地区における緑化工法の一考察

可兒孝志 (東濃森林管理署)

野中圭太 ()

・金華山国有林とボランティア活動について

川瀬健一 (金華山国有林保護管理協

議会)

小坂隆昭 (岐阜森林管理署)

■民有林の部

・イヌワシ生息地の環境整備地における

餌動物確保のためのノウサギの隠れ場

試作設置について

峰岸郁生 (長和町イヌワシ調査グル

ープ)

片山磯雄 ()

・強酸性土壌に起因する崩壊地の緑化工

5 年間の推移

田淵千春 (長野県長野地方事務所)

片倉正行 (長野県林業総合センター)

松澤義明 (長野県林業コンサルタン

ト協会)

・PDAを持って山へ行こう!

小林裕之 (富山県林業技術センター)

松井俊成 ()

・列状間伐における列設定・測樹について
の取り組み (津水源林整備事務所
の事例について)

佐々木誠 (緑資源機構)

■学生の部

・高齢級スギ人工林における間伐作業の
事例について

山内美菜子 (名古屋大学)

・飛騨の安らぎ空間を護るために (森
林の持つ土砂災害防止機能について)

井戸一隆 (飛騨高山高校)

白川拓巳 ()

・上農高校緑地工学科の活動

唐澤一樹 (上伊那農業高校)

宮下正秀 ()

・森林組合における体験研修を通じての
林業技術の考察

嶋村浩香 (長野県林業大学校)

小林明仁 ()

・林業者としてつかみたい夢 (新しい
視点で森林を考える)

田中有紀子 (飛騨高山高校)



講評する山田准教授 (名古屋大学大学院)



優秀賞を受賞する飛騨署川本さん



優秀賞を受賞する愛知所萩原さん



優秀賞を受賞する富山署吉田さん



最優秀賞を受賞した大西さん、
目黒さんと前原署長

国有林野事業業務研究発表会で
最優秀賞等を受賞

「飛騨森林管理署・森林技術センター」
指導普及課」十一月二十七日、林野庁に
おいて平成十九年度国有林野事業業務研
究発表会が開催され、各局から二部門・
計二十五課題の発表が行われました。

当局からは、森林ふれあい部門に飛騨
署の大西沙織森林ふれあい係長と目黒雅
大甲森林事務所員が「地域と連携した環
境教育・環境保全の取り組み」を、また
森林技術部門に技術センターの基幹作業
職員大林誠司と森林技術専門官熊澤智史
が「地域に適応した路網整備を軸とする
低コスト作業システムへの取り組み」を
発表しました。

その結果、前者が林野庁長官賞(最優
秀賞)を、後者が林野庁長官賞(優秀
賞)を受賞するというすばらしい成果を
おさめ、後日、それぞれ署・所長から表
彰状が伝達されました。

木材生産と利用拡大

「教育関係施設に間伐材を！」 教育委員会等へ要請活動

【販売課】十二月五日、長野県県産材振興対策協議会（構成団体・中部森林管理局、県木連、県森連等木材関係団体）として、県産間伐材の利用促進を図るため、長野県内、十三市町村に三班構成で要請活動を行いました。

本年度は、各市町村が耐震診断結果に基づき、各学校等で補強等の改築工事が計画されていることから、この機会に施設への木材利用を推進していただくよう要請を行いました。

要請先である各市町村の教育委員会には、「地球温暖化防止の観点から、森林整備を通じ生産される木材の利用促進が重要であること」、「木材使用の校舎は優れた教育環境の形成に寄与すること」等を趣旨とした、要望書を手渡し、学校等の新改築に当たって、木造化・木質化を



千曲市教育委員会への要請行動

推進し県産材の利用促進をお願いしました。

要請先からは、新改築に当たっては、出来る限り木材を使用する方向で取り組んでいる旨の話が多く伺え、木材の利用促進への理解が深まっていると感じました。

低コスト・高効率作業システム導入に向けての現地検討会を木曽署で開催

【販売課】十二月十三日、木曾森林管理署管内の奈良井国有林において、中部森林管理局主催による、低コスト・高効率作業システム導入に向けた現地検討会を開催しました。

参加者は、長野県、長野県内の林業事業体、森林管理署等の関係者約八十名が参集しました。

本検討会は、十月二十三日の飛騨署の検討会に引き続き実施したもので、活力有る森林づくりのために必要な間伐の効率的な実施に向けて、作業路網と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの普及・啓発を図るため、民有林施策との連携を図りつつ、国有林が率先的な役割を果たすことを目的に開催したものです。

現地では、小祿局長より「木材の安定供給、国産材の復権に向けて、川下においても色々と取り組むとともに、川上でもできる限り安いコストで素材を生産する必要がある。そのためにも、路網を整



作業路の作設状況

備し、高性能林業機械を組み合わせた低コストの作業システムの推進が重要となる。そのモデルとして、木曾署で実施した事例を見ていただき、今後の導入に向けての参考としていただきました。」旨の挨拶の後、現地説明に入りました。

現地は、四万十方式を基本とし、現地の状況に応じた作業方法を検討・実施している箇所、明治初期頃伊那の農民によって水源を確保するための水路として使用していた箇所を活用して作業路の作設、現地発生資材を利用した洗い越しの設置など、署独自の考え方や工夫が随所に見られ、実施に当たっての考え方や苦労談、今後の課題等について木曾署の署長、業務第二課長からの説明を受けました。参加者からは低コスト・高効率作業システムの企画・普及・実践をするという観点からの意見、質疑が出されました。

本年度、中部局においては飛騨・木曾・岐阜の三署において請負による低コスト作業システムを試行的に実施し、

それらを活用したデータの収集や企画者・オペレーターの養成を行うこととしています。

当該作業システムの推進に当たっては、事業を発注する各森林管理署等担当者との企画者としての資質向上とそれを実践できる事業体オペレーターの養成が重要であり、今後においても現地検討会や研修会を実施し、現地に応じた作業システムの検討・普及に努めていくことが必要になっています。

今回の現地検討会では、新たな国産材需要を見据え、民・国を通じた木材安定供給体制の確立、適切な森林の整備には、トータルコストの低減による生産性の向上、低コスト・高効率作業システムの普及が重要との認識を深めることができ、今後更に局及び関係署等が連携し取り組むこととしています。

各種会議と国有林視察

「犬山市長国有林を視察」

【愛知所】当所では、地球温暖化防止森林吸収源対策の取り組みとして、「明るい里山づくり」を目標に、照葉樹林帯の本数調整伐作業を実施しています。

十一月七日、田中犬山市長が八曾国有林の作業現場を視察に訪れました。

これは、九月二十五日に当所において開催しました、国有林野所在市町村有志

協議会での森林吸収源対策についての事業説明に対し、市長がかねてから考えていた里山づくりと合致するため、ぜひ整備状況を見たいという要望があり実現したものです。

現地では、所長及び尾張森林官から事業概要を説明の後、歩道を歩きながら隣接する整備前と同様の民有地と、整備された国有林を見比べ、市長から「国有林での里山整備作業の継続」を要望されるとともに、「国有林における整備を参考に犬山市においても市民が気軽に楽しめる明るい里山づくりを目指し取り組んでいく事が大切。」と熱く語られました。

当所では、今年度、犬山国有林においても更に約七十鈴の本数調整伐作業を発注しており、歩道周辺を中心に「明るい里山づくり」を目指し取り組んでいく予定です。



市長に犬山に於ける林道説明をする市長酒井

国有林野管理審議会を開催

「国有林野管理課」第六十三回中部森林管理局国有林野管理審議会が十一月二十七日、局大会議室において開催され

ました。

当日は、審議会委員十一名が出席し、小緑局長が挨拶した後、小池正雄信州大学教授を会長に選出し、三件の議案について審議が行われました。三議案とも「諮問のとおり実施することで異議なし」と答申されました。

- 一 岐阜県高山市名田町外に所在する国有財産（望岳寮敷）の売払いについて
 - 二 長野県長野市栗田に所在する国有財産（静林荘敷）の売払いについて
 - 三 長野県木曾郡木曾町福島に所在する国有財産（旧森林技術第一センター庁舎敷等）の売払いについて
- 審議の中では、委員から「三号議案の建物は、昭和二年建築の洋館で旧帝室林野局庁舎といった文化的価値が高いものであり保存の検討を」といった意見や、国有林野事業の運営への助言、要望等も活発に出されました。



審議会の様子

「魚が住みやすい森林づくり」を目指して

「岐阜署」「溪流魚付保全林」は、平成十五年六月十一日、溪流魚の生息環境を守る為とその周辺の森林を守ることが重要な役割だという観点で旧馬瀬村（現下呂市）と岐阜森林管理署が覚書を結び、上流の国有林一、九〇〇鈴、民有林四七〇鈴を指定したものです。

平成十九年度から漁業協同組合、森林組合、岐阜県河川環境研究所、岐阜県下呂市、森林技術センター、岐阜森林管理署をメンバーとし「馬瀬溪流魚付き保全林連絡調整会議」を開催しており、十二月十二日には三回目の会議を開催しました。

この間、馬瀬は馬瀬川の鮎が全国の味コンテストで「日本一」に다가やくともにも、NPO法人の「日本で最も美しい村連合」の十一地区の一つに加盟することになり、川及び上流森林整備についても注目されるようになってきています。

今回、岐阜県河川研究所による「溪流魚について」、「森と川のつながり」と題した二つの研究報告を受け、魚が住みやすい森林施業方法について意見交換を行いました。

溪流魚の生態は、まだまだ判らない部分がありますが、溪流魚の生態を知ることや各分野との意見交換が魚付保全林での施業体系確立に結びつくことを再度確



馬瀬川の溪流魚付保全林を考える連絡調整会議

認し、民・国連携による馬瀬川流域の面的な森林整備と溪畔林の整備を図っていくこととしています。

平成十九年度

国有林モニター会議の開催

「企画調整室」開かれた「国民の森林」の実現に向けた取り組みの一つとして国有林モニター制度を実施しています。その一環として、モニターの皆様から直接ご意見を伺うため、一月二十四日、モニター会議を愛知森林管理事務所管内瀬戸国有林にある森林交流館と定光寺自然休養林において開催したので、その概要を紹介いたします。

会議には、管内各地から十一名のモニターに出席頂きました。まず、定光寺自然休養林を視察し、尾張森林官から景観に配慮した都市近郊林の取り扱い、ヒノキ林の間伐の必要性、かつて裸地であった森を人手を掛けて再生した経緯等につ

いて説明を受けました。

その後、森林交流館の二階で、平野局長、次長、計画部長、愛知森林管理事務所長等との意見交換を行いました。モニターからは、「国有林モニターに参加して、森林のことを色々知りたくなりました。」「国有林モニターになるまでは森林への関心は低かったが、毎月送られてくる冊子を読んで改めて勉強になった。」等の感想や「間伐をしないで済む植え方はないのか。」「木の生理機能を活かす人手を掛けないで間伐できる方法はないのか。」等の質問のほか、「国有林のいいところをもっとアピールすべき。」「国有林の森林整備にもっと企業の力を使うべき。」等の提案など、様々な発言がありました。



熱心な意見交換の場となったモニター会議

各地からのたより

小学生に森林の働きを解説

（出前授業の開催）

【木曾署】 森林環境教育の推進として本年度より取り組みを行っている出前授業（森林教室）を十二月十一日、塩尻市立榎川小学校において開催しました。

当日は、奈良井森林官、森林ふれあい係長が小学校五・六年生三十一名を対象に、地球温暖化と森林の役割や水の循環等について説明し、森林管理署の仕事を紹介しながら授業を行いました。

森林の持つ公益的機能のうち、水資源のかん養と土砂流出防止の機能について、水の流れ方を直感的に捉えてもらうために、森林と荒廃地を模型にした比較実験や、昨年七月の豪雨災害時での被害状況を写した写真等を活用して説明したところ、子供たちは興味深く熱心に聞き



水の流れ方を実演する田中森林官

入っていました。また、テレビ信州で七月一日より放映している「森へ行くうー」の当署分のビデオも併せて上映し、権兵衛時のジャンボカラマツは地元でも馴染みがあったため、歓声があがるなど大きな関心を寄せていました。最近では子供たちが地元の自然に親しむ機会が少なくなってきたようですが、今後もうこうした森林教室を開催し、身近にある森林の話をする事で自然に興味を持つてもらおうきっかけを作り、将来を担う子供たちへ森林・林業の大切さについて認識が更に深まるよう取り組んでいきたいと考えています。

付知の児童が東濃ヒノキに興味津々

興味津々

【東濃署】二月一日、当署から国道を挟んだ向かいにある、付知南小学校から三年生の児童四十一人が当署を訪れました。付知南小とは、毎年五年生を対象とした森林教室を実施していますが、今回は三年生が総合学習の一環として、地元への理解を深めるため、付知町の産業や東濃ヒノキ等について調査を行っており、森林やヒノキについての質問が多く出たことから、今回、その疑問を解決するため当署を訪れることとなりました。

当日は「どのような仕事をしているのか。」など、当署の仕事に関する質問に始まり、「付知町にはどの位のヒノキがあるか。」「木曾ヒノキは有名ですか。」



ヒノキとサワラの違いを観察

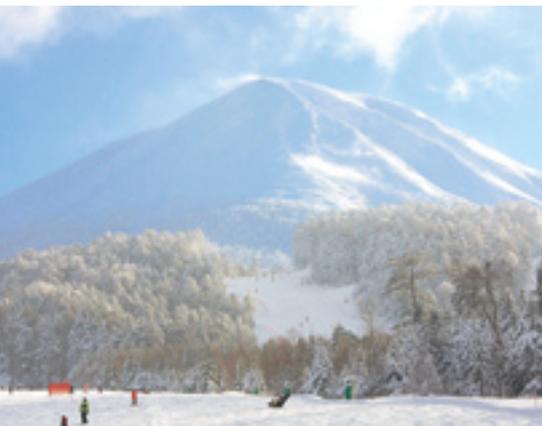
など、林業が盛んな付知町ならではの質問が次々と出され、地元のことについても関心が高く、また勉強熱心な姿勢に驚かされました。担任の先生は今後も付知町の林業や木曾ヒノキについて、当署と連絡を取りながら学習を継続していきたいと話していました。

雄大な御嶽山を背に

（チャオスキー場）

【飛騨署】 岐阜県高山市高根町にある「チャオ御岳スノーリゾート」は、国有林の「森林空間総合利用整備事業」（HGP）として、素晴らしい山岳景観と森林空間のなかで多くの国民のみなさんに森林レクリエーションとしてのスキーを楽しんで頂いており、今シーズンも昨年十二月八日にオープンしました。

昨年末の大雪は利用者の足を奪った面もありましたが、新年に入り多くのスキ



御嶽山をバックに

今年、当地は積雪期以外には高地トレッキングとしても活用されており、ナショナル高地トレッキングセンターの誘致などに積極的に取り組まれ、昨年は世界陸上に出場したフランスの選手が合宿しました。

今年の北京オリンピックに向けても合宿の意向が伝えられるなど、住民の減少が見られる高根地区ですが、地域住民の温かいおもてなしとともに、国有林も地域の振興に一役買っています。なお、当地は高標高にあり貴重な自然の保全と活用といった面で、毎年実行管理委員会により事業者とともに現地調査をするなど、事業の適切な運営に努めているところです。

例年スキーシーズンは五月連休明けまで可能ですので、皆さんのお越しをお待ちしております。

「東濃署」当署が管理している上村恵那国有林は、恵那市上矢作町の東北部に位置しており、面積は四一七五畝で、町の約三分の一の面積を国有林が占めています。

大半がスギ・ヒノキを主体とした人工林で占められており、平成十二年には恵南豪雨災害によって甚大な被害に見舞われ、八年経った現在もその復旧作業が続けられています。

この上村恵那国有林には、古くからアライダシと呼ばれる地区があり、約十畝にわたってモミヤツガ、ブナやミズナラなどの天然木が多種多様に広がり、美しい森林景観を作り出しています。

現在は、レクリエーションの森「アライダシ自然観察教育林」として遊歩道が整備され、地元住民をはじめ散策に訪れた多くの森林愛好者に利用されています。

昨年、当署と地元の上矢作町まちづくり

ふう けい き こう
風景紀行
アライダシ
自然観察教育林
 34
 東濃森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

アライダシ自然観察教育林

り委員会の協働により、自然観察教育林の案内パンフレットを作成したところ、散策される方から大変ご好評を頂いています。

国有林境である尾根を一步超えると大船牧場が広がっており、その広い敷地には、風力発電を目的とした十三基の大型風車がそびえ立ち、迫力満点の景観を生み出しています。

この風車は高さが六十五メートルあり一年間で一八〇〇万キロワット(平均的な一般家庭約四六〇〇軒分)もの電力を供給しています。

風力を利用した発電であることから、重油に換算すると一年間で約四五〇〇キロの資源が削減されることとなります。また、二酸化炭素の排出量約九九〇〇トンの削減が可能であり、地球温暖化の抑制に貢献していると共に、地元住民からは「かみやばぎ風の森」と呼ばれ、憩いの場として親しまれています。

今年の上矢作町で、風力発電施設と自然観察教育林を案内できるガイドの養成講座も計画されており、県内外を問わず、より多くの人に親んでもらえる場所として、地元からも期待されています。

◇アクセス方法
 国道四一八号線より暗井沢林道を経由して大船牧場へ至る。(十三km)
 自然観察教育林までは徒歩で移動

(一・七km)



迫力満点の風車群



そびえ立つブナの巨木



完成したパンフレット

シリーズ20

実験林・試験地等紹介

「ブナ生長固定試験」



〔北信森林管理署・指導普及課〕 本試験地は、ブナ天然林の生長を継続的かつ長期的に調査し、生長予測を行い得る資料を収集するため、ブナ天然林の多い北信森林管理署（旧飯山管林署）管内に林齢の異なる林分を三箇所設定しています。

昭和六十三年度に巢鷹山国有林一三〇ほ、木島山国有林一四六ち林小班に固定調査区を、平成元年度には木島山国有林一五二に林小班に固定調査区を設定し調査を行ってきています。

試験地は豪雪地帯に位置し、標高一、二〇〇メートル、三三八〇メートル、基岩は安山岩で土壌型はBE、下層植生はチシマザサ・シナノザサが疎生し、オオバクロモジ、オオカメノキ等が生育しています。設定の考え方は、林齢に関わる指標として平均胸高直径を用いることとし、当初、平均胸高直径が一〇センチメートル、二〇センチメートル、三〇センチメートル程度の三林分としました。

○試験地の概要

面積 三、〇五六平方メートル

現在林齢 九〇〜一九〇年生

○調査内容

試験地内の立木について胸高直径一メートル単位、樹高は一〇センチメートル単位に測定し直径階別本数分布、蓄積の推移、生存本数の推移、生長量等を調査しています。

◎試験結果（設定後一五年経過時点）

| 試験地 | 設定当時の直径（約） | 樹種 | 本数/ha現在 | 本数 | 直径 | 樹高 | 蓄積 | 生長量/ha・年・m ³ |
|---------|------------|------|---------|-----|------|------|------|-------------------------|
| 巢鷹山130ほ | 10cm | ブナ | 1,460 | 89% | 134% | 124% | 155% | 6.1 |
| | | カンバ等 | 50 | 38% | 137% | 140% | 271% | 3.0 |
| 木島山146ち | 20cm | ブナ | 900 | 90% | 117% | 113% | 139% | 9.5 |
| 木島山152に | 30cm | ブナ | 710 | 86% | 115% | 108% | 117% | 7.0 |

各試験区における設定当時と15年後の推移

●まとめ

全試験区ともに良好な生長をしています。生存率は九〇％程度でブナの枯損低減が少ないことを表し、小径木である巢鷹山一三〇ち林小班は直径、樹高、蓄積ともに生長率が高く、大径木の木島山一五二に林小班は安定期に向かいつつあると考えられます。

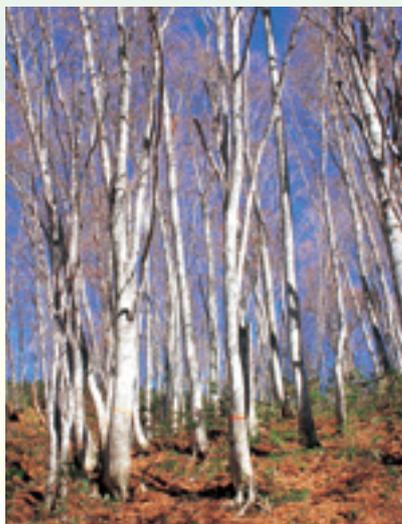
林齢に係る指標として平均胸高直径を用いることとしていますが、ブナ天然林は必ずしも一斉更新をしていないと考え

られるので、今後、調査簿林齢との相異等を解明するため林分における林齢調査を行うこととしています。また、この試験地は今後、五年毎の調査を行い、さら生長過程を分析していくこととしています。

○所在地 長野県下高井郡木島平村・野沢温泉村
○報告書は「試験調査報告」平成一八年度 中部森林管理局 75ページ



巢鷹山 130ほ



木島山 146ち



木島山 152に